

三菱化工機ニュース（プレスリリース情報）

No.432 平成28年1月6日
総務人事部法務グループ福島藻類プロジェクト事業向け
微細藻類回収用分離板型遠心分離機「三菱ディスクセパレータ」稼働開始

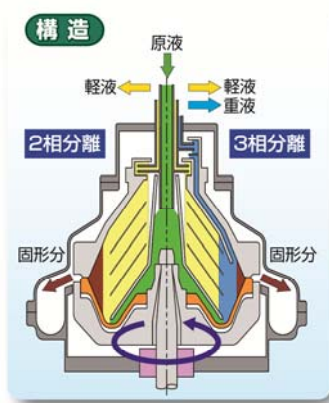
三菱化工機株式会社（社長：高木 紀一）は、国立大学法人筑波大学を中心に産学共同で活動する一般社団法人藻類産業創成コンソーシアムが行う福島藻類プロジェクト事業※に参画・活動しています。本事業では、藻類バイオマス燃料の実用化に必要な技術開発とビジネスモデルの策定を推進しており、政府の昨年7月に発表となった「2020年までに藻類バイオマス等で製造したジェット燃料を導入する」の指針に合致したものです。

本事業の藻類バイオマス生産開発拠点となる福島県南相馬市の藻類培養施設で、藻類バイオマス回収向けに当社の分離板型遠心分離機「三菱ディスクセパレータ」が、採用され稼働を開始しました。

南相馬市の藻類培養施設では「三菱ディスクセパレータ」により、日量50m³の土着藻類の培養液から5～10%の濃縮液として藻類バイオマスを収穫します。また、培養液から藻類バイオマスを回収して清澄になった分離液は、培養液として再利用する計画です。



稼働中のディスクセパレータ



ディスクセパレータの構造



藻類培養液と分離清澄液

三菱ディスクセパレータは、円錐状のディスク（分離板）を内蔵した回転体を最大10,000min⁻¹以上の高速で回転させ、比重差と強力な遠心力を利用して「液分/固形分」又は「液分/液分」の2相分離や、「液分/液分/固形分」の3相分離を連続的に処理できる装置です。

0.1μm～数十μmの微細な粒子の分離に適用でき、数千～数万m²の沈殿槽に相当する処理を、わずか1～3m²の設置スペースで実現することができます。

三菱化工機株式会社は、分離板型遠心分離機「三菱ディスクセパレータ」などの単体機器を中心とした固液分離技術、及び、油脂抽出精製・水処理などのプラントエンジニアリング技術を、注目を集める藻類バイオマス産業における藻類の培養から収穫・藻油の抽出に至るまでの過程で、総合的に幅広く提供していきます。

以上

お問い合わせ先

三菱化工機株式会社

川崎市川崎区大川町2番1号 総務人事部 法務グループ(広報担当)

福島藻類プロジェクト事業向け 微細藻類回収用分離板型遠心分離機「三菱ディスクセパレータ」稼動開始

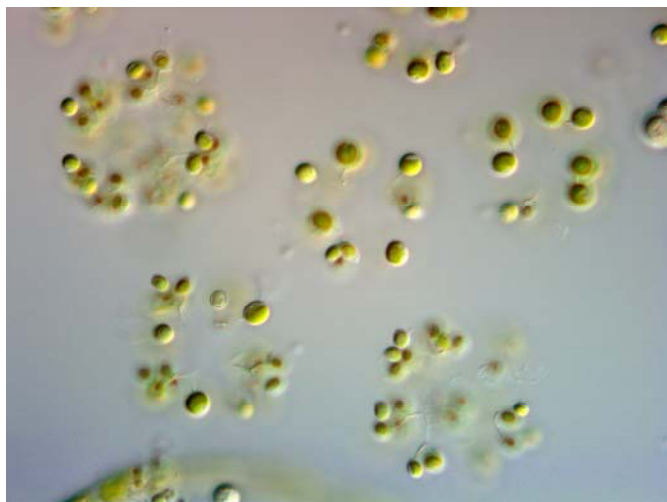
※ 福島藻類プロジェクト事業：福島県の復興を図るため、再生可能エネルギーに関する次世代技術の開発を行う福島県再生可能エネルギー次世代技術開発事業により、平成25年度～平成27年度「土着藻類によるバイオマス生産技術の開発」として、福島県南相馬市に藻類バイオマス生産実証実験施設を建設し、産学官共同で藻類産業の育成を目指した産業技術の実用化研究を実施するプロジェクト。



福島藻類プロジェクト事業 藻類バイオマス生産開発拠点



デスマデスムス属 (Desmodesmus)



ディクティオスフェリウム属 (Dictyosphaerium)

提供) 藻類産業創成コンソーシアム

お問い合わせ先

三菱化工機株式会社

川崎市川崎区大川町2番1号

総務人事部 法務グループ(広報担当)